

# 第 49 回日本脳神経血管内治療学会中部地方会プログラム

日 時：2018 年 4 月 7 日（土） 13:30 ～ 18:15

会 場：名古屋大学医学部附属病院講堂（中央診療棟 3F）

〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町 65

発表 6 分，討論 5 分を目安にご発表ください。

## セッション 1 脳血栓回収療法

13:30 - 14:05 座長 江頭 裕介先生

### 演題 1. 小児脳底動脈閉塞にて対して血栓回収療法を施行後にトラッピングを選択した 1 例

安城更生病院 脳神経外科脳血管内治療センター

- オオタ ケイスケ 太田圭祐、原田英幸、滝戸悠平、片岡弘匡、加野貴久

### 演題 2. 消化管出血を契機に発症した急性内頸動脈錐体部閉塞に対して血管内再開通療法を行った一例

国立病院機構名古屋医療センター 脳神経外科

- アサイ タクミ 浅井琢美、横山欣也、雄山隆弘、川口知己、宮澤卓真、大野真佐輔、須崎法幸、梶田泰一、高橋立夫

### 演題 3. CAS 1 週間後に発症した急性ステント内閉塞に対し血栓回収術を施行した 1 例

一宮西病院 脳神経外科

- イトウ ケイスケ 伊藤圭祐、白坂暢朗、船井三規子、安田宗義、宮寄章宏、根来眞、

## セッション 2 DAVF

14:05 - 14:55 座長 西川 祐介先生

### 演題 4. 頭蓋頸椎移行部 AVF の 1 手術例

金沢大学附属病院 脳神経外科<sup>1)</sup>、公立能登総合病院 脳神経外科<sup>2)</sup>

- ウチヤマ ナオユキ 内山尚之<sup>1)</sup>、見崎孝一<sup>1)</sup>、毛利正直<sup>1)</sup>、南部育<sup>1)</sup>、廣田雄一<sup>2)</sup>、中田光俊<sup>1)</sup>

### 演題 5. 後頭静脈洞に灌流する硬膜動静脈瘻に対し経動脈的塞栓術を行った 1 例

豊川市民病院 脳神経外科

- ヤマモト ミツハル 山本光晴、松本隆、渡邊隆之、松尾州佐久、柴田広海

## 演題 6. 頭蓋内静脈の著明な拡張を有する後頭蓋窩硬膜動静脈瘻の 1 例

市立四日市病院 脳神経外科

- シライ ダイモン  
白石大門、中林規容

## 演題 7. sinus balloon protection 併用 TAE が有用であった Type I transverse-sigmoid sinus dural AVF の 1 例

富山大学医学部 脳神経外科

- シロ タイスケ  
城泰輔、秋岡直樹、柏崎大奈、桑山直也、黒田敏

## セッション 3 動脈瘤 1

14:55 - 15:45 座長 見崎 孝一先生

## 演題 8. 動眼神経麻痺で発症した内頸動脈-後交通動脈瘤に対しコイル塞栓術を行った 4 症例の検討

金沢医科大学 脳神経外科<sup>1)</sup>、金沢医科大学氷見市民病院<sup>2)</sup>、

- シラガ ションスケ  
白神俊祐<sup>1)</sup>、高田久<sup>2)</sup>、飯塚秀明<sup>1)</sup>

## 演題 9. モヤモヤ病に併発した脳底動脈先端部大型動脈瘤に対し horizontal stent-assist coil embolization を行った 1 例

朝日大学歯学部附属村上記念病院

- カノウ キヨミツ  
加納清充、山田拓見、安田祥二、岡直樹、石澤錠二、郭泰彦

## 演題 10. 脳底動脈先端部瘤に複数枚のステントを用いたコイル塞栓術の二例

名古屋大学 脳神経外科

- オシマ リョウスケ  
大島良介、泉孝嗣、大多和賢登、玉利洋介、塚田哲也、西堀正洋、若林俊彦

## 演題 11. 塞栓術中に P1 の血栓性閉塞をきたした脳底動脈先端部動脈瘤の 1 例

富山県済生会富山病院 脳卒中センター脳神経外科<sup>1)</sup>、富山大学医学部 脳神経外科<sup>2)</sup>、富山県済生会富山病院 脳卒中センター脳卒中内科<sup>3)</sup>

- クボ ミチヤ  
久保道也<sup>1)</sup>、桑山直也<sup>2)</sup>、岡本宗司<sup>1)</sup>、古井英介<sup>3)</sup>、高正圭<sup>1)</sup>、白石恵太郎<sup>1)</sup>、城泰輔<sup>1)</sup>、堀江幸男<sup>1)</sup>、黒田敏<sup>2)</sup>

## 休 憩 (25分)

事務局からの報告 (16:10 - 16:15)

### セッション 4 AVF・慢性閉塞

16:15 - 16:50 座長 西堀 正洋先生

#### 演題 1 2. 血管内治療で根治困難であった spinal epidural AVF の 1 例

名古屋市立大学大学院医学研究科 脳神経外科

- シバタ テイシキ  
柴田帝式、西川祐介、大蔵篤彦、間瀬光人

#### 演題 1 3. Access route に苦慮した cavernous dural AVF の 1 例

藤田保健衛生大学病院 脳卒中科<sup>1)</sup>、藤田保健衛生大学病院 脳神経外科<sup>2)</sup>

- ハセハ、アキコ<sup>1)</sup>、中原 一郎<sup>1)</sup>、渡邊定克<sup>1)</sup>、鈴木健也<sup>1)</sup>、大見達夫<sup>1)</sup>、小田淳平<sup>1)</sup>、我那覇司<sup>1)</sup>、  
定藤章代<sup>2)</sup>、早川基治<sup>2)</sup>、廣瀬雄一<sup>2)</sup>

#### 演題 1 4. 慢性期内頸動脈閉塞に対して血管内治療で再開通を得た 1 例

三重大学医学部附属病院 脳神経外科

- コトウ、フキ  
後藤英希、安田竜太、当麻直樹、鈴木有芽、三浦洋一、芝真人、鈴木秀謙

### セッション 5 動脈瘤 2

16:50 - 17:40 座長 大島 共貴先生

#### 演題 1 5. MRI が破裂部位診断で有用であった小動脈瘤の 1 例

名古屋市立東部医療センター脳神経外科

- ウチダ アツシ  
打田淳、大野貴之、藤浪亮太、山中智康、岩田卓士、金井秀樹

#### 演題 1 6. 嚢状脳動脈瘤破裂によるくも膜下出血の小児例

福井県済生会病院

- フカカ ヒデアキ  
福岡秀哲、高島靖志、山崎法明、向井裕修、若松弘一、宇野英一、岩井和之、

### 演題 17. 穿通枝温存のため、急性期に stent+ coil をおこなった破裂解離性椎骨動脈瘤の一例

独立行政法人名古屋医療センター 脳神経外科

- ヨコヤマ キンヤ 横山欣也、浅井琢美、川口知己、雄山隆弘、宮澤卓真、大野真佐輔、須崎法幸、梶田泰一、高橋立夫

### 演題 18. 動脈瘤へのマイクロカテーテル誘導に難渋した BA-TOP 破裂脳動脈瘤の一例

浜松医科大学 脳神経外科<sup>1)</sup>、浜松医科大学放射線科<sup>2)</sup>、磐田市立病院 脳神経外科<sup>3)</sup>

- マツイ シュウスケ 松井秀介<sup>1)</sup>、平松久弥<sup>1)</sup>、神谷実佳<sup>2)</sup>、堀川真<sup>3)</sup>、大石知也<sup>1)</sup>、戸塚剛彰<sup>1)</sup>、難波宏樹<sup>1)</sup>

## セッション 6 アクセス

17:40 - 18:15 座長 定藤 章代先生

### 演題 19. 椎骨動脈のガイディングカテーテルが Wedge したときの対策

愛知医科大学 脳血管内治療センター<sup>1)</sup>、愛知医科大学 脳神経外科<sup>2)</sup>

- オオシマ トモタカ 大島共貴<sup>1)</sup>、宮地茂<sup>1)</sup>、松尾直樹<sup>2)</sup>、川口礼雄<sup>2)</sup>、高安正和<sup>2)</sup>

### 演題 20. 4Fr ガイディングシースを用いた経上腕動脈アプローチによる脳血管内治療

岐阜大学医学部 脳神経外科

- ニシワキ タカユキ 西脇崇裕貴、飯田知宏、山内圭太、江頭裕介、榎本由貴子、岩間亨

### 演題 21. 6F ガイディングシースを使用した右橈骨動脈経由脳血管内治療の初期経験

信州大学医学部 脳神経外科

- ハナオカ ヨシキ 花岡吉亀、小山淳一

## 会場・駐車場案内

**駐車場が昨年と異なりますのでご注意ください！**



お車でお越しの方は、名大教職員用駐車場をご利用ください。駐車券の用意がございませんので地方会の受付で申し付け下さい(患者用駐車場はご利用いただけません)。なお、駐車場スペースには限りがあります。満車の場合は近隣駐車場をご利用ください。

### 次回 (第 50 回) 開催予定

2018年8月4日(土) 13時より

場所: 富山市電気ビル 富山市桜橋通り3番1号 (JR富山駅から徒歩7分程)

当番幹事: 富山大学 脳神経外科 桑山直也

参会費: 会員 ¥2,000 非会員 ¥5,000 コメディカル・海外留学生 無料

特別講演: Moon Hee Han 先生

会員懇親会(参加費無料): 地方会終了後、18:30頃～

### 会員登録のお願い (事務局より)

本会は、会員管理、情報発信及び演題登録などの業務をWeb上で一括管理し、運営を行っています。つきましては、本会の会員としてwebにてご登録いただき、今後の学会情報の発信や連絡などを徹底できるように致したいと存じます。今後の重要な連絡などに漏れや不備が生じる恐れがございますので、何卒ご賢察の上、よろしくご協力賜りますようお願い申し上げます。